

観光振興計画に基づく 北広島市の取組 (概要)

北広島市観光基本計画

－基本方針1 市民力を活かした観光推進力づくり－

1-1 推進体制の確立と支援

- 1-1-1 観光協会の活性化
- 1-1-2 都市型観光推進体制の整備

1-2 市民による観光の推進

- 1-2-1 ガイド及びインストラクターとの連携
- 1-2-2 人を迎える意識の醸成

1-3 事業者と連携した観光の推進

- 1-3-1 体験型観光の展開
- 1-3-2 市内事業者等との連携による観光事業の企画と展開
- 1-3-3 滞在型の観光事業の企画と展開

1-4 近隣自治体等との協力・連携

- 1-4-1 近隣自治体等との協力・連携
- 1-4-2 産学官連携による魅力づくり

－基本方針2 観光資源の保全と有効活用－

2-1 観光資源の発掘とブラッシュアップ

- 2-1-1 観光資源の掘り起こし
- 2-1-2 観光資源のブラッシュアップ
- 2-1-3 土産物や食資産オリジナルグッズ等のPR

2-2 観光メニュー・ルートの創出

- 2-2-1 観光メニュー・まち巡り観光ルートの創出

2-3 観光資源となりうる各種取組との連携

- 2-3-1 エコミュージアム構想との連携
- 2-3-2 グリーンツーリズムとの連携
- 2-3-3 スポーツ交流やイベントとの連携

北広島市観光基本計画

－基本方針3 魅力ある観光基盤の構築－

3-1 観光施設及び周辺環境の整備

- 3-1-1 案内表示板等の計画的な整備
- 3-1-2 観光案内所やアンテナショップの検討

3-2 交通体系の整備

- 3-2-1 交通体系の充実
- 3-2-2 サイクリングネットの充実
- 3-2-3 市道の整備

－基本方針4 効果的な情報発信－

4-1 より効果的なPR

- 4-1-1 メディアの活用
- 4-1-2 観光ホームページの充実

4-2 観光パンフレット等の充実

- 4-2-1 観光パンフレットの作成
- 4-2-2 外国人向け観光ガイドマップの充実

基本方針 1 市民力を活かした観光推進力づくり

1-1 推進体制の確立と支援

1-1-1 観光協会の活性化

・令和3年6月に「一般社団法人北海道きたひろ観光協会」が設立、任意団体から法人化へ、自主自立的な事業運営を開始。

1-1-2 都市型観光推進体制の整備

・平成26年度に観光振興に関する施策を総合的に推進するため、商工会や観光協会、宿泊、ゴルフ場、店舗、市民、学識等で構成する「きたひろしま都市型観光推進協議会」を設置。毎年、観光振興の取組に関して、様々な立場から幅広い意見交換を行う。

1-2 市民による観光の推進

1-2-1 ガイド及びインストラクターとの連携

・エルフィンロード等の観光資源を活用し実施した「ツール・ド・キタヒロ」では、大学生や自転車愛好家との連携により事業を運営。

1-2-2 人を迎える意識の醸成

・観光協会と連携し、観光事業者や市民を対象に、異文化理解やホスピタリティなどインバウンド対応力の向上を目指した研修を実施。

基本方針 1 市民力を活かした観光推進力づくり

1-3 事業者と連携した観光の推進

1-3-1 体験型観光の展開

・地域資源を活かし、自転車を核としたコンテンツづくりを進め、平成25年度より、「ツール・ド・キタヒロ」を開催。このほか、モニターツアーやファムトリップの見学・体験として地域資源を活用。

1-3-2 市内の事業者等との連携による観光事業の企画と展開

・インバウンド受入に向けたモニターツアーやファムトリップを市単独、又は圏域で開催。農園や商業施設、食を楽しめる観光スポットの提案など、事業者と連携した取組を推進。

1-3-3 滞在型の観光事業の企画と展開

・インバウンド受入に向けたモニターツアーなどゴルフツーリズムを圏域で実施。

1-4 近隣自治体等との協力・連携

1-4-1 近隣自治体等との協力・連携

・北海道へのゴルフ観光客の誘致を進める「北海道ゴルフツーリズムコンベンション協議会」、圏域における観光客の増加を目指す「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」、外国人旅行者の誘客促進に向けた「広域観光周遊促進事業」等に参画。

1-4-2 産官学連携による魅力づくり

・「きたひろしま都市型観光推進協議会」における連携のほか、観光学部を有する大学との連携により、学生視点での観光資源の掘り起こしやターゲット層を踏まえた効果的な情報発信等の調査・研究。

基本方針2 観光資源の保全と有効活用

2-1 観光資源の発掘とブラッシュアップ

2-1-1 観光資源の掘り起こし

2-1-2 観光資源のブラッシュアップ

・外国人を招聘したモニターツアー等の実施により、外国人視点での評価を行うことで、観光資源に関する魅力や課題の把握・掘り起こし。学生視点での観光資源の掘り起こし、観光商品の造成等の調査・研究。

2-1-3 土産物や食資産オリジナルグッズ等のPR

・市外で行われる各種イベントに参加し、地元産を使った食資産のPRを実施。商工会や市内事業者では、赤毛米を活用した商品開発も展開。

2-2 観光メニュー・ルートの創出

2-2-1 観光メニュー・まち巡り観光ルートの創出

・インバウンドを含めた交流人口の増加等を目指した農泊の取組を推進。体験と宿泊をセットにした旅行商品のモニターツアーを実施。このほか、観光スポットや食を楽しめる「ツール・ド・キタヒロ」を実施。

基本方針 2 観光資源の保全と有効活用

2-3 観光資源となりうる各種取組の連携

2-3-1 エコミュージアム構想との連携

・観光パンフレットや観光情報サイト等を中心とした情報発信のほか、旧島松駅通所の説明では、多言語でのPR動画を公開。また、「ピクニックライド・さっぽろ」によるガイド付き都市型サイクリングツアーとして、「北広島市ツアー緑の回廊エルフィンロードと北広島マンモスを楽しむコース」を造成。

2-3-2 グリーンツーリズムとの連携

・農泊の取組を推進するため「北広島市農泊交流協議会」が設置され、体験と宿泊をセットにした旅行商品のモニターツアーを実施。

2-3-3 スポーツ交流やイベントとの連携

・「北海道ゴルフツーリズムコンベンション協議会」に参画。H30年度は北広島市がホスト自治体として、東アジアや東南アジア等から旅行会社等を招へいし北海道のゴルフブランドをPR。令和元年に開催されたJRヘルシーウォーキングでは、北の酒まつりと同日に設定、交流の促進や滞在時間の増加等に寄与。

基本方針3 魅力ある観光基盤の構築

3-1 観光施設及び周辺環境の整備

3-1-1 観光表示板等の計画的な整備

・ボールパーク開業により交通結節点となるJR北広島駅には、市外から多くの来訪が想定されることから、外国人を含む観光客に分かりやすく利便性の高い案内表示等の整備を検討。

3-1-2 観光案内所やアンテナショップの検討

・R元年度・2年度において、観光サービスに対する観光客のニーズ把握のため、観光協会と連携し、JR北広島駅東口に臨時観光案内所を設置。現在、常設の観光案内所の整備に向け検討。

3-2 交通体系の整備

3-2-1 交通体系の充実

・R元年10月に民間事業者が運行する北広島団地線が「さんぽまち・東部線」として再編。

3-2-2 サイクリングネットの充実

・北海道への早期整備要請。

3-2-3 市道の整備

・計画的な道路整備を推進。

基本方針4 効果的な情報発信

4-1 より効果的なPR

4-1-1 メディアの活用

・市のPRや各種イベント等について、テレビや新聞等のメディアを活用した情報発信を実施。また、テレビでは、市がロケ地として採用された番組もあり、メディアへの露出によりまちのPR・宣伝効果が得られた。

4-1-2 観光ホームページの充実

・観光情報サイト「きたひろ農学校」は、シティセールスの一環として「観光」に特化したWebサイトとして平成24年度に公開。

4-2 観光パンフレット等の作成

4-2-1 観光パンフレットの作成

・市の概要や歴史、宿泊、食事、イベント、アクティビティ、案内図等の情報をまとめた観光パンフレットのほか、サイクルツーリズムの推進に向けたコンセプトブックやサイクリングマップを作成。

4-2-2 外国人向け観光ガイドマップの充実

・市の概要や歴史、宿泊、食事、イベント、アクティビティ、案内図等の情報をまとめた観光パンフレット（英語、簡体字、繁体字、韓国語）のほか、サイクルツーリズムの推進に向けたサイクリングマップを多言語（英語、簡体字、繁体字、ハングル語）で作成。